

かどのわき

今昔カルタ



い いきいき体操 百歳めざして がんばろう

いきいき体操は、2013年より始まりました。この年の6月にJENのご支援によりプレハブを寄贈して頂きました。8月に愛知県蟹江町医療生協の伊藤さんが体操教室を行い、これがきっかけで毎週体操教室を行いようになりました。若妻会が主体となり、毎週水曜日に行っています。2016年に東復興住宅に集会所ができ、現在はそこで行っています。体操だけではなく季節の行事、ゲーム、小物作りもあります。



ろ ろくもんせん さなだ 真田の子孫 眠る寺

西光寺には仙台真田10代目の子孫、真田喜平太と妻と長男の墓石があります。白石城主2代目片倉小十郎重長は、大坂夏の陣で真田幸村と激戦を繰り広げましたが、幸村は子女の後事を小十郎に託しました。預かったのは、阿梅、阿菖蒲、おかね、大八です。その10代目の子孫が戊辰戦争で活躍した喜平太です。彼の長男は門脇で医院を開業しましたが26才で亡くなっています。六文銭とは、三途の川の渡し賃で、真田家の旗印です。居酒屋の六文銭とは違います。



は バクダンや 音に群がる 子供たち

バクダン屋（ポン菓子）は、各町の要所で移動営業しました。釜（10気圧・7分間加熱）を開放するときバクダンのような音がするのでバクダンと呼ばれました。米などの穀物を釜で圧力をかけ、一気に開放することで膨らみます。各家庭の米や正月の鏡餅を持参すると、10倍の量になります。ポップコーンと同じです。この辺では天保飢饉の供養地蔵の前、門小校門前で営業していました。



に ニチロ工場 昔は河口 かわぐち 今内陸 ないりく

昭和10年に北上川右岸に門脇魚市場ができました。旧ニチロ門脇工場は昭和21年に門脇魚市場の隣にできました。当初は缶詰が主体だったようです。昭和28年に門脇魚市場まで臨港線が開通し、貨車で魚を東京方面に運びました。ニチロは2017年まで門脇で操業していましたが、防潮堤の計画のため70年間門脇で操業したニチロ工場は内陸の河南地区に移転しました。ニチロの排水は集魚効果があり、移転後に魚はさっぱり釣れなくなりました

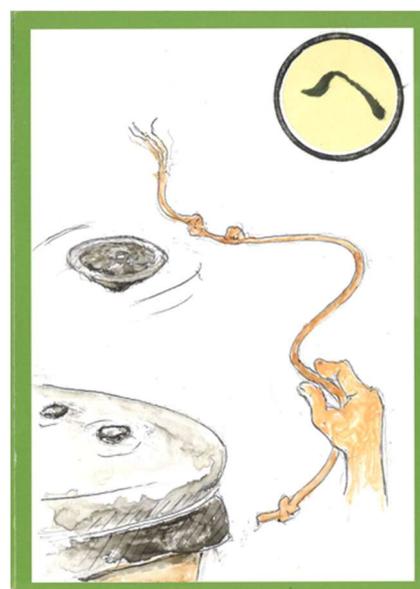


ほ ホーホケキョ 日和山に 春の知らせ

日和山を上空から見ると、日和山の南東部が急傾斜のため一番緑が残っています。日和山に城を築いた葛西家はこの急傾斜を利用して築城したのでしょうか。毎年3月初旬から鶯が鳴き始めますが、その頃も鶯は鳴いていたのでしょうか。日和山の春の知らせです。この場所はまだ自然が残っており、様々な野鳥が訪れます。冬にはキツキの木をつつく音が、夏にはフクロウの鳴く声が聞こえます。フクロウは日和山と称法寺の松で「ホーッ・ホーッ」と鳴くのがなんとも風情があり物悲しい。

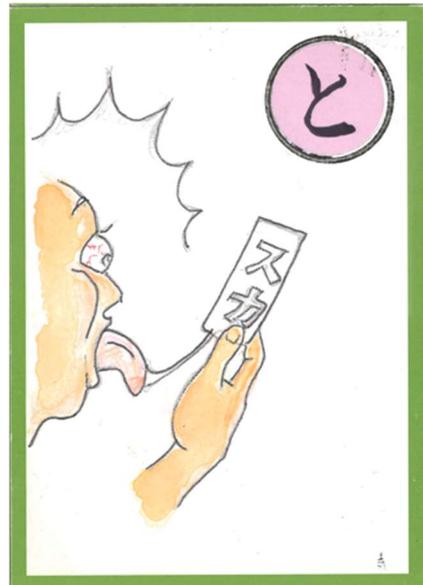
へ ベーゴマ、ビー玉、メンコ 渡邊君の宝物

男の子の遊びは、ベーゴマ・ビー玉・メンコが主でした。女の子はオハジキ・ゴム飛びなどでした。ベーゴマは樽などの上にゴムカップを被せその上で回しました。ベーゴマの底をグラインダーなどで削ってよく回るようにしました。カップの上から他の駒をはじき出せば勝ちです。メンコはパッチといいました。パッチを打ち付けて他のパッチをひっくり返したり、下にもぐりこませれば勝ちです。小学6年生になると「いつまで遊んでいるの!」といわれ、中学からは受験勉強でした。



と <sup>なつ</sup> とつけ懐かし 5円握って <sup>だ が し や</sup> 駄菓子屋へ

とつけ（とすけ）は、子供たちを対象にしたくじ引きで「取り付ける」という言葉が語源です。宮城県の方言のようです。小さな紙片が束になったものから1枚引いて舌で舐めると文字が浮かび上がります。外れは「スカ」あたりは「当たり」と文字が出ました。当たると景品がもらえて大喜び。映画「3丁目の夕日」で店主が「スカ」と筆で書いているのを見て納得しました。ミョウバンで文字を書くと濡れると文字が浮かぎあがります。

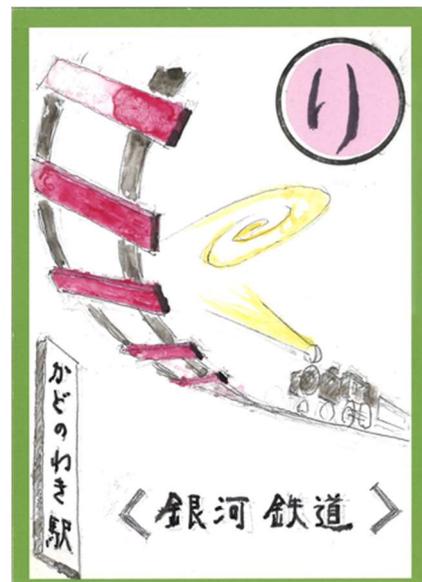


ち <sup>くごはま</sup> 町内会 九後浜平和会が 始まりだった

昭和になってから町内会が組織されたようで、この地区では九後浜平和会と呼ばれました。九軒町・後町・浜横丁の頭文字をとっています。九後浜平和会の旗の写真が残っています。この旗は昭和13年1月16日に支那事変戦捷記念として当時の平和会会長だった本間儀兵衛が町内会に寄贈したものです。葛西家の紋章である三柏に平和の象徴である白い鳩があしらってあります。戦後は、九軒町は友和会、後町は平和会、浜横町は親交会といたしました。

り <sup>りんこうせん</sup> 臨港線 蒸気機関車 懐かしい

山下駅から門脇魚市場まで約3.5キロの区間に昭和28年に臨港線が開通しました。臨港線は門脇魚市場が開設された時計画されましたが、東北パルプが昭和15年に完成した時にパルプ工場まで開通しましたが、戦争のため門脇魚市場までの開通は遅れました。小学4年生の時、南浜で停車していたSLの運転席に乗せてもらいました。釜を開けると真っ赤に燃えた石炭が熱かった。(渡邊)



## ぬ 濡れぶつつあん 皆にさすられ ピカピカに

自分の体の痛む部位は、濡れ仏の同じ部位をさすると痛みが取れるといわれていました。高いところも触れるように両側に階段がついていました。濡れ仏は元禄2年に京都で鑄造され、元禄10年に現在地に建立したといわれます。京都から石巻に持ってくるときに海難で海に没し、数年後に雲雀野海岸で引き上げられてと云われます。津波のため行方不明になり、今は残された台座がわびしく残っています。

《濡れ仏や 台座にしてみる 霧笛かな》

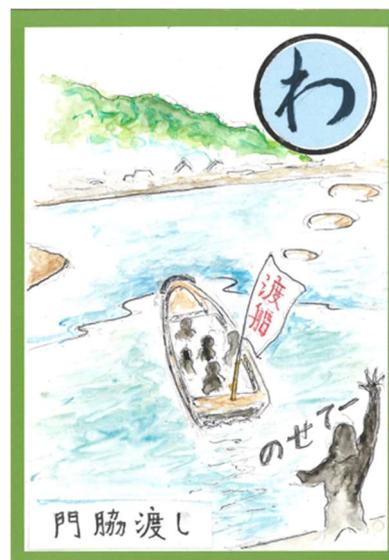


## る 瑠璃色の 海を見晴らす 日和山

日和山から見晴らす海は絶景です。ここから見える島々は、田代島、網地島、兎島、鮫島、弁天島生草島、波島の7つの島です。松尾芭蕉は元禄2年に石巻を訪れ「こがね花咲くと奉る金花山海上に見渡し、数百の廻船入り江につどい、人家地をあらそいで竈の煙立ちつづけたり」と詠みました。金華山は日和山からは見えません。ちなみに、日和山という名は1650年頃にできた名で全国に百ヶ所ほどあります。廻船が盛んになり日和を見るために上った山です。宮城県には4ヶ所あります。瑠璃色に輝く海の6千キロ先はハワイです。

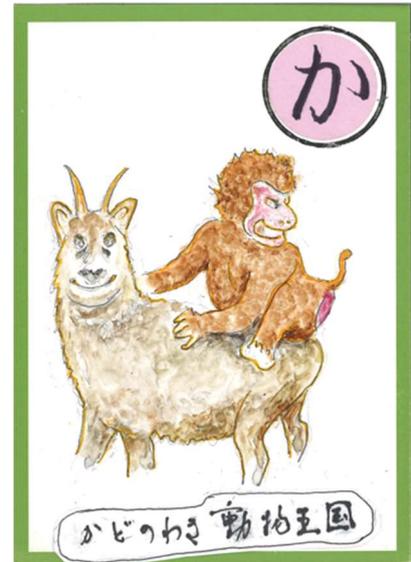
## わ 渡し船 ポンポン船で 日赤へ

門脇の渡しは江戸時代からありました。住吉は「上の渡し」門脇は「下の渡し」と呼ばれました。昔の渡し船は魯漕ぎだったでしょう。門脇地区の住民は湊の日赤に行くのに便利でした。中瀬に行く人とすると中瀬の南端に寄りました。昭和30年代は大人10円、子供5円、自転車は20円でした。白竜丸大阪丸が運行していましたが日和大橋が昭和54年に開通して4～5年で廃止になりました。マイカーがない時代は、ゆっくり時が流れていた気がします



か カモシカもサルもあらわる かどのわき 門脇

2023年に1匹の離れサルが日和山に現れ各町内会で目撃されました。警察でも近づかないように警報を出しています。ある家の窓越しに飛び掛かる様子もテレビで放映されました。同年はカモシカも現れ、現在では子供のカモシカもいるので、日和山～羽黒山付近に住み着いたようです。その他、タヌキ、キツネ、アナグマ、ハクビシン、リスもいますが夜行性が多くなかなか会えません。住民も少なくなつて動物が活発に動いているようです。



よ 酔っぱらいの 声がうるさい 日和山



震災前の日和山公園のお花見は、たくさんの人で賑わっていました。昼には屋台もたくさん並びました。昔は公園に明かりをつけて夜桜宴会も盛んでした。今ではあまり酔っぱらいは見かけませんが、昔は酔っぱらって喧嘩もありました。日和山の下では、夜中まで酔っぱらいの声がうるさく響きました。今では人も減少して夜桜はほとんど見られなくなりました。夜中に散歩していると不審者扱いにされるので歩けません。

た ターザンごっこの日和山 綱が切れて落下した

日和山は子供たちの格好の遊び場でした。木の高い枝からロープを下げて、ターザンごっこで遊びました。時には綱が切れて落下しました。冬に雪が積もると、クジラの噴水のところから西側の斜面が絶好のそり遊びの場所でした。西光寺の裏は急斜面で子どもたちは通称アルプスとっていました。アルプス山脈のアルプスとっていましたが、昔ここにアルプス温泉という料亭があったことを大人になってからわかりました。



れ 連絡船 門脇から島々へ かどのわき

震災前の連絡船の発着所は中町でした。門脇の船溜まりに新しく網地島ラインの発着所を建設中でしたがもはや完成というときに津波に襲われました。震災後に一時門脇の岸壁が網地島ラインの発着所になりました。

マーメイドII、シーキャットが田代島、網地島へ観光客や物資を運んでいます。特に田代島は猫の島で全国的に有名になり、海外からも猫好きがやってきます。



そ 空を飛ぶ ひばりの鳴き声 ピーチクパーチク



雲雀野は5月ごろから空中にホバリングしてピーチクパーチクと鳴きます。中にはホバリングに疲れて垣根などに止まって鳴いているヒバリが笑えます。子供たちは昔あった雲雀野の競馬場の草むらで雲雀の卵を探しました。雲雀の子をポケットに忍ばせ、小学校に持ってきて自慢する児童もいました。夏にはゲゲツ(ヨシキリ)の鳴き声がうるさく響きました。濡れ仏のご詠歌 -ひばりのにふりさきみればかすがなるうなばらちかくてらす月かげ-

つ つつじ園 結婚式の メッカだったね

日和山公園は大正4年から整備され、桜とつつじが植えられました。つつじは群馬県から取り寄せられました。大正9年に開業したつつじ園は、何時の頃から結婚式のメッカになりました。ホテルのない時代は鹿島御兎神社で式を挙げ、つつじ園で披露宴をしました。つつじ園は残念ながら平成18年に86年間の営業に幕を閉じました。戦時中は松島海軍航空隊の倶楽部となり、つつじ園の女将は特攻隊に行くたくさんの隊員を見送りました。女将は「日和山有情」という本を著しています。



ね 猫神様 鎮座まします 田代島 ちんざ

今では猫の島として有名になった田代島には猫神社があります。猫は200匹以上いるようです。田代島は、北上川河口から18キロ、面積27平方キロで縄文時代から人が住み始めました。(田代貝塚) 現在住民は50人足らずですが、昭和30年頃は1000人もの住民がいました。漁業が中心で定置網では、かつて大マグロやタイが漁獲されました。猫はほとんどが野良猫で漁師さんから魚をもらって餌にしています。



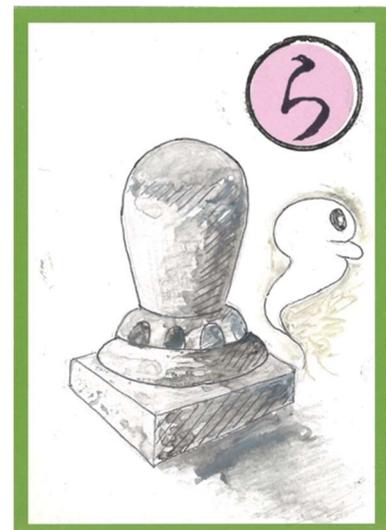
な なんち 南地では かんらくがい 歓楽街が最初の住民



明治の頃の南地は、原田・後谷地・濱渕・善海田と呼ばれ、明治33年に堀川農場ができました。その後、この場所に昭和10年、歓楽街ができました。南地という名は南方開発で募集した歓楽街の名前です。遊郭が5軒と乙種料理店7軒がありました。戦後、昭和23年から引揚者のために市営住宅が建設されました。震災前まで、平屋の鉄筋コンクリート住宅数十軒と1号から4号までの4階建鉄筋コンクリートアパートが4棟ありました。

ら ランバとはなんだ 墓場のことだ らんとうば 卵塔婆

西光寺と称法寺のある門脇地区は墓地が多く、門脇小学校の新校舎を建設した時は山際からたくさんの人骨が出てきました。津波でほとんどの墓石は倒れ、古い土葬の骨も出てきました。昔の子供たちはランバでもよく遊びました。地面を踏まないようにお墓の石を飛び跳ねて遊びました。近辺の遊び場は日和山と畑、それから墓場しかありませんでした。卵塔婆はお墓を指す言葉ですが、お坊さんの墓石が卵型をしているので卵塔婆ともいいます。

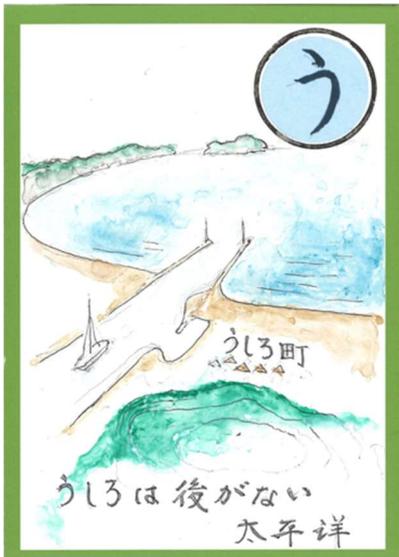


む 村のはずれのお地藏さん てんぼうききん あかし 天保飢饉の証だよ

仙台藩の最初の大飢饉は、宝暦の飢饉で宝暦5年（1755）から翌年まで続きました。天明の飢饉は天明2年（1782）から6年間続きました。天保4年（1833）から4年間ほど続いた天保の飢饉では門脇村では人口の半分、約千人が餓死しました。供養のお地藏さんと地元の女性たちが建立した供養碑があります。津波で倒れましたが直されています。今は物価高とはいえ、飽食時代の我が身には考えられないことです。



う うしろまち 後町 なんで後ろか わからない



後町は元禄時代には「よこまち」と書かれています。享保の頃には「志も町・うしろ町」と記載されています。安永2年（1773）の「風土記御用書出」には、西光寺は下町裏、称法寺は下町横町とあります。天保の石巻絵図には「御城町」とありますが、これは「うしろ」を「おしろ」と間違えているようです。地名は時代によって変わりますが、現在では門脇町になりました、今でも電柱には後町線と書かれています。

の 野良猫が まねき猫となるか かどのわき

21世紀に入り、田代島が猫島として全国的に有名になりました。東日本大震災では田代島に全国から援助が寄せられ、3か月で1億円もの寄付がありました。これは田代の猫の力だったのです。住民が少なくなったこの地に、人を招くのにまねき猫＝野良猫の力が必要でしょうか。門脇2丁目の「まねき公園」に由来は江戸時代の「まねき」と「人をまねく」と「まねき猫」を合わせた名前です。「まねきショップ」を「まねき猫」と間違えている人もいました。



**お** <sup>みやげ</sup>お土産に いつももらった 福田屋のかき飴

九軒町にあった福田屋のかき飴は大正時代に開発、蠣のエキス入りでお土産の定番でした。福田屋さんのご主人は新し物好きで、昭和30年代に北上川で最初に水上スキーをしました。また、アクアラング（潜水具）の草分けでもあります。親類の門小～門中出身の福田晶子さんはローマオリンピックの走り幅跳びに出場、石巻初のオリンピック選手です。かき飴は震災後途絶えていましたが、珈琲工房「いしかわ」により復活しました。

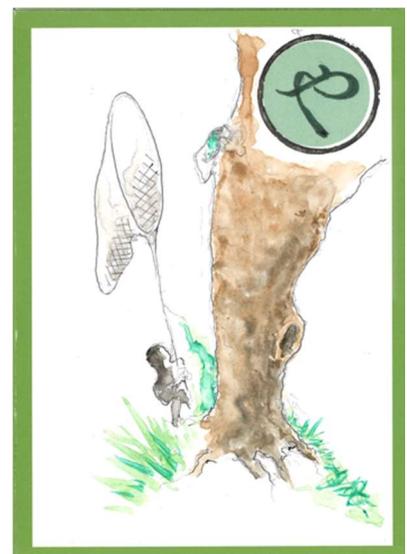


**く** <sup>くけんちょう</sup>九軒町、<sup>うしろまち</sup>後町、<sup>はまよこちょう</sup>濱横丁 <sup>くごはま</sup>合わせて九後濱平和会

戦前の町内会は九後濱平和会と呼ばれました。震災後も門脇町2～3丁目の町内会の名は平和会でした。大正10年頃は、後町濱横丁青年会があり、金華山から神鹿を日和山に奉納しています。大正10年の奉納記念の石碑が日和山公園にあります。大正12年には九後濱義勇団も結成され関東大震災の時に東京でも警備にあたっています。当時の団長は矢野金太郎さんです。今では「九後濱」といってもわからない人がほとんどです。

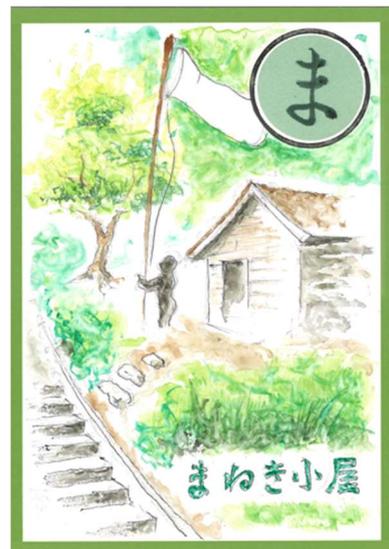
**や** やま学校 自然の学校 日和山

やま学校とは、学校へ行ったふりをして山で遊んでいることです。門脇地区は背後が日和山で遊ぶところが沢山ありました。昔は昆虫などもたくさんいて山で遊んでいても飽きなかったのです。やま学校をしていた時に学校から自宅にお宅のお子さんがまだ学校へ来ていないと電話がありやま学校がばれました。今では、都会の子供たちが山村に留学してやま学校で学んでいます。雄勝のモリウミアスもそうです。現在の「不登校」とは違います。



## ま まねきとは 船の安全 守る役

江戸時代の北上川河口は難所で、船の遭難が数多くありました。船の出入港の安全を守るために、日和山の中腹で航路を指し示す役をまねきと云いました。河口は浅く座礁事故が多かったのです。南風が吹くと大波が立ちました。大正期までまねきの小屋が残っていました。北上川河口での最大の海難は昭和31年の瓢箪丸の遭難です。宮崎県のサンマ船で、入港時に操船困難になり西側防波堤に衝突し乗組員46人のうち39名が亡くなりました。

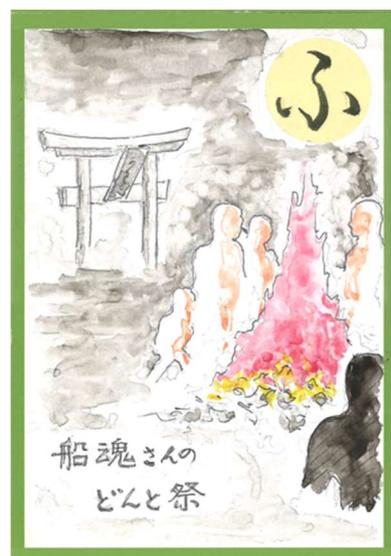


## け けいばじょう 競馬場 ヒバリにヨシキリ 野鳥の楽園

石巻の最初の競馬場は大正4年にできた蛇田競馬場です。その後移転して昭和6年から昭和10年までは水押にありました。戦後、昭和23年に石巻競馬場が雲雀野にできました。競馬場では小学生が見物中に柵をはみだして馬に接触する事故もありました。観客の動員数が減って昭和35年に終了しました。昭和30年代は、映画、テレビ等の娯楽が増えたためでしょうか。競馬場の内側は、草原と小さな水路があり野鳥の楽園でした。

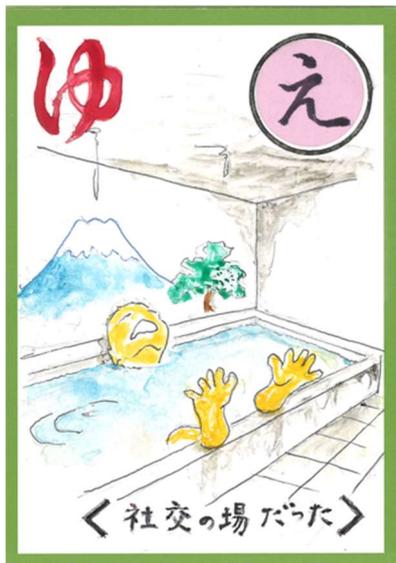
## ふ ふなだま 船魂さん せんごくふね 千石船の 守り神

船魂神社は、江戸時代から船の守り神として信仰を集めていました。社殿には龍を背中に背負った8体の立像がありました。八大竜王の大きな石碑もありました。寛元3年(1225)中瀬に建立したと伝わります。寛政年間(1790~)に門脇の後町に勧請、大きな社殿が写真にあります。昭和47年に、道路拡張工事のため門脇船溜まり北に移転しました。津波のためにその場所は水没して跡形もなくなりました。



こ <sup>ごんげん</sup>権現さん <sup>そまつ</sup>粗末にするな <sup>くず</sup>山が崩れる

九軒町にある自力竜王大権現は、昭和7年5月の九軒町大火（15戸焼失・布団に焼印を押捺中に出火）の後、建立されました。九軒町の山際は急傾斜地で、これまで何度か山崩れが起きました。昭和40年頃の山崩れで権現さんも埋まってしまいました。現在はコンクリートの擁壁で守られています。3.11の津波の時は付近の住民はこの場所に避難し、津波を見ていました。昔は権現さんのお祭りも盛大に行われていたのです。



え <sup>えんとつ</sup>煙突高いお風呂屋さん <sup>ふるや</sup>孔雀湯・<sup>くじゃくゆ</sup>中野湯・<sup>なかのゆ</sup>南海湯 <sup>なんかいゆ</sup>

昭和の初め頃から、石巻に数多くの漁船が入港するようになり、門脇にもお風呂屋さんが沢山できました。船が入港すると漁師はまず風呂屋に行ったのです。漁師は風呂に入るのが楽しみだったのです。この地では、浜横町の孔雀湯、門小前の中野湯、南浜町の南海湯がありました。孔雀湯は最後に残った風呂屋さんです。この頃、自宅に風呂はありましたがパルプの人から銭湯の回数券をもらって、月に数回は銭湯に行ったものです。

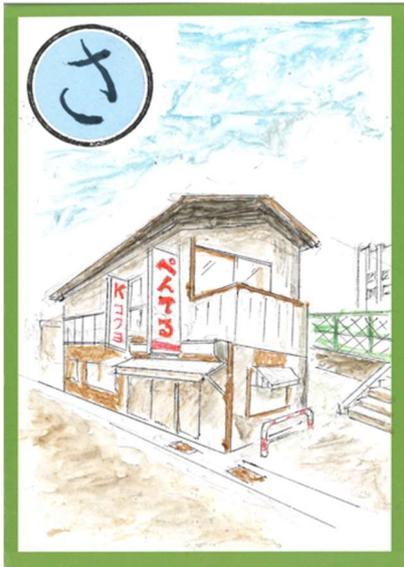
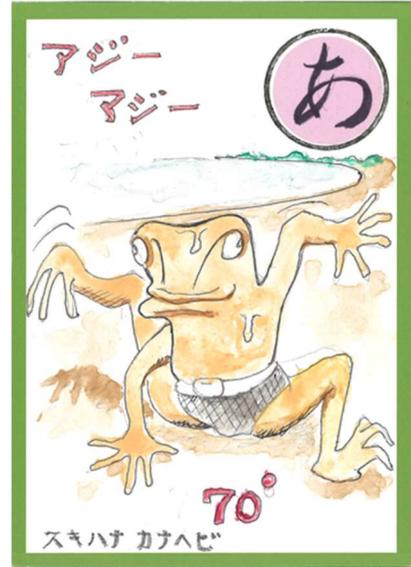
て <sup>たまおとひび</sup>テニスコート 球音響く 半世紀

石巻ローンテニスクラブは1979年に日和山裾にできました。硬式テニスクラブとしては石巻で2番目の会員制テニスクラブです。クラブ創設から2026年で47年となり、仙台の老舗のテニスクラブは廃業して今では宮城県では一番古い会員制のテニスクラブになりました。日和山の南麓なので冬でも北風の影響を受けません。かつては石巻のテニスのメッカといわれました。当時は若者が多かったのでクラブからは何組ものカップルができました。



## あ 足裏焼ける 夏の砂 ひばり野海水浴場

門小の児童は、昭和33年まで夏には海浜学校として雲雀野海水浴場で泳ぎました。自宅から水着のまま雲雀野海水浴場に行きましたが、土手を越して水際までの砂が熱かったのです。その頃は「くまんつあん」といわれた有名な監視人がいました。(熊井板金のご主人) 昭和30年と同32年に門小児童が水難で亡くなり昭和34年に石巻の小学校として2番目にプールができました。プールができた時はうれしくて、泳げないけど水泳部に入りました。



## さ <sup>さかみや</sup> 榎屋さん 門小前の 文具店

門小の前に震災前まで小さな文具店がありました。一時期は食堂も併設されていました。門小のプールのすぐ近くだったので、夏には児童の声がうるさかったと思います。榎屋さんの脇から日和山に上る細道があり、3.11の津波の時は門小の児童はこの道を通って日和山に避難しました。榎屋さんは津波のため流され、プールや墓地に文房具が散乱していました。現在、この場所は民間伝承施設「ミート」になっています。

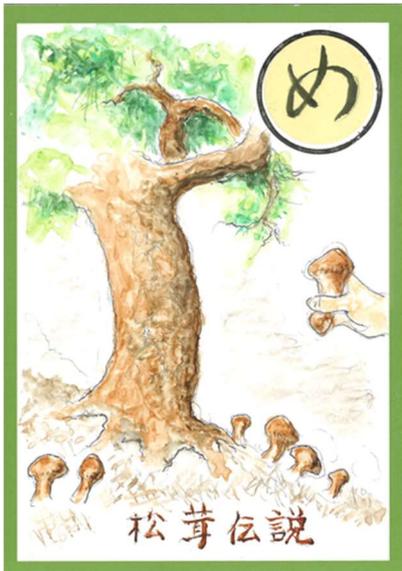
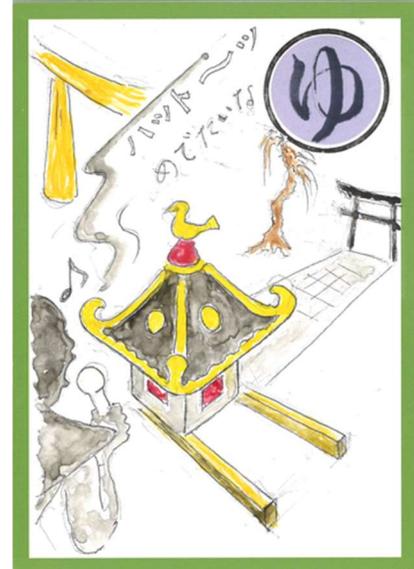
## き 切手買うのは塩屋さん 赤いポストも立っていた

西光寺前の塩屋(須田)さんは、塩の他に切手と文房具も売っていました。当時、塩は専売だったので塩と書かれたハウロウの看板が店先にぶら下がっていました。切手も扱っていたので、店の前には赤いポストがありました。近くの子供たちはここで文房具を買いました。また、某映画館のポスターも掲示していて子供たちはその看板を見て楽しみました。絵のバイクは小笠原商店のご主人のスーパーカブで、毎日宅配をしていました。



ゆ 夕暮れに おごそかに神輿の納歌 鹿島さん

鹿島御児神社の祭典は、昔は5月15日でした。門脇は船大工の町で、神輿の担ぎ手は造船関係の人々が多くいました。神輿は町中を巡行し、最後に表参道の急な階段を上りました。夕暮れに神輿を納めるときに社殿の前に神輿を据えて納めの唄を唄います。この唄は造船に関わる歌詞であり、全国各地に伝わっています。石巻造船の祖と云われる明石出身の中村庄右衛門が伝えたのかもしれませんが。



め めっけだど ひばり野の松林 きこの山

江戸時代から、東北各地の海岸には防風、防砂、潮除けのため黒松が植えられました。東北には黒松は少なかったため黒松の苗は東北以南から調達しました。ひばり野は標高が低く地下水面が高いためか松の生育はあまりよくありませんでしたが、松露などキノコが生え近所の人の食卓に上りました。津波のため黒松は全滅しましたが、その後再び植林されてまたキノコが採れるようになっていきます。将来多くの木が植樹されたこの地はキノコで有名になるかもしれませんね。

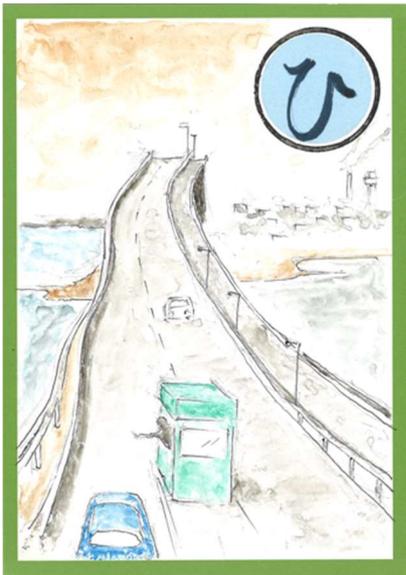
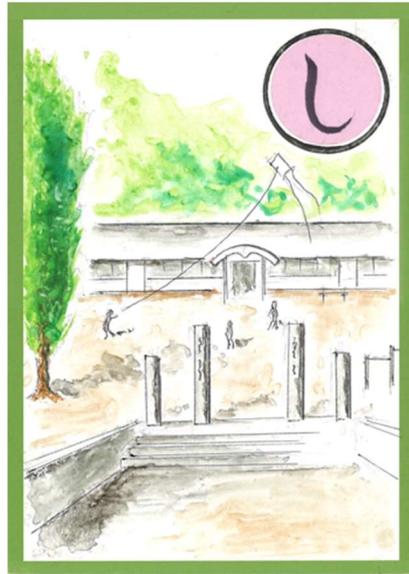
み 湊のにおい 雨になる パルプのにおい 癖になる

石巻、門脇など北上川の西側では匂いがすると雨になるといわれました。東風が吹いて湊の魚加工場の匂いが北上川を越えて石巻、門脇方面に来るのです。パルプの匂いは、逆に南～西寄りの風が吹くと匂います。原木の樹皮の匂いと工場排水の匂いでしょうか。今ではほとんどの水産加工場も魚町に移り、工場の排水も処理され匂いも少なくなりました。パルプ工場も公害対策がされて懐かしい匂いはしなくなりました。



## し かどのわき 小学校は門脇 一番古い学校だったね

門脇小学校の開校は石巻で一番古いといわれ、明治6年5月9日の開校です。石巻小学校は同6月4日。門小の最初の場所は、北上川河畔の津方奉行所跡でしたが手狭になり、明治35年に現在の場所に新築しました。震災時の児童数は300名でしたが、児童が減少し2015年3月31日に142年間にわたる歴史を閉じました。川開き最後の鼓笛隊パレードでは、最後に行進し門小校歌を3度も演奏しました。現在、震災遺構の鉄筋3階建ての校舎は昭和35年の完成です。

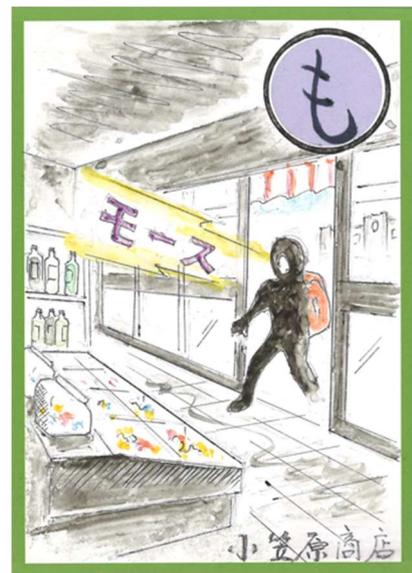


## ひ 日和大橋 有料だったね その昔

日和大橋は昭和54年（1979）に開通し、当初は有料橋でした。橋梁長さは約717mで当時は県内で一番長い橋でした。橋げたから水面までの高さは約18メートルで、当時活躍していた北転船が通れる高さでした。料金は普通車150円、軽自動車100円でした。短い距離の割には料金が高かったと皆が思っていました。平成12年（2000）無料化になりました。台風の際は波が上がって通行止めになったりしました。

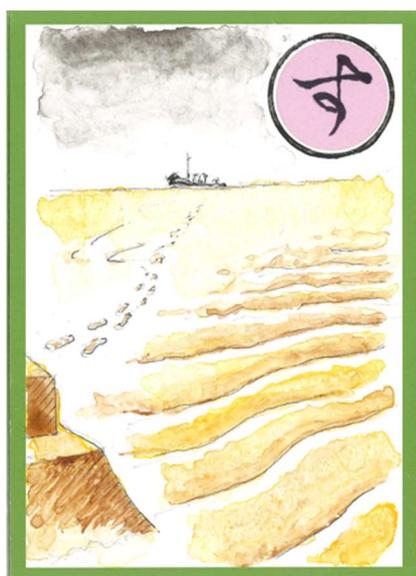
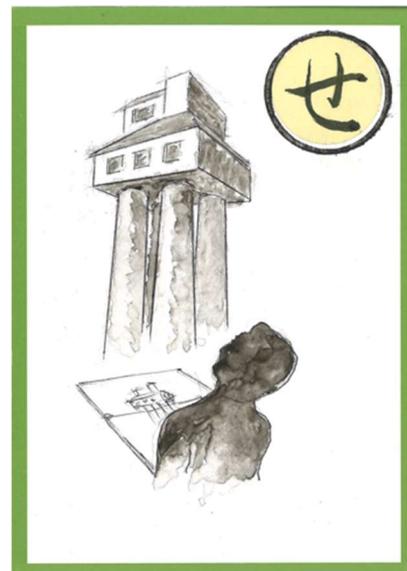
## も もーすと言って お店に入る

駄菓子屋に入るとき、子供たちは「もーす」と言いました。電話交換手の「これから申します」から始まって「もしもし」となったのが語源の様です。石巻での電話の始まりは明治41年からです。最初の電話回線は後町の武山家から湊の一誠館の間でした。また、「ものもーす」という説もあります。ちなみに宮城県の小牛田では「かいす」と言っていました。これはものを買うことから来たようです。後町だけで駄菓子屋さんには5～6軒あったのでしょうか。



せ せいやくとう 製薬塔 パルプのシンボル しゃせいかい 写生会

東北振興パルプの製薬塔は特徴ある、当時は石巻で一番高い建物でした。東北振興パルプ工場は昭和15年に創業を開始しました。秋田工場も同規模、同時期の操業です。パルプ工場の社宅が整然と並んでいました。山の手は上社宅で幹部の住居、下は下社宅でした。門小にはパルプ関係の児童が沢山いました。昭和30年代の門小の写生会では児童のほとんどはこの製薬塔を写生しました。パルプは今でも石巻で一番の大企業です。



す 砂の城 作ってあそんだ ひばり野海岸

昔から子供たちは砂浜に来ると何故か波打ち際に砂で城を作ります。大きな波が来るとすぐ流されて壊れてしまうのですが、壊れないように作るのが面白いのでしょうか。ほとんどの皆様も砂の城を作った覚えがあるでしょうか。雲雀野海岸にはたくさんの貝殻が打ち寄せられ、さくら貝など集めました。しかし、現在では海や川に近づくと危ないと言って子供たちが海に近づくことはなくなったようです。立派な防潮堤は住民の親水性をなくしてしまいました。

## あとがき

震災後、早15年《石巻カルタ》を見てわが町も《かどのわきカルタ》を作らないか。「そうだ、作ろう、つくろう」ということになった。

とりあえず何種かの詠み句を作ることになり、有志8名の中からベストの句を選んだ。ところが震災がらみの中身が多いため、震災カルタと今昔カルタの2種を作ることになった。

問題はそれからだ、いったい誰が絵をかくのだ。しかも絵にできないような句が多すぎる。とりあえず3名で手分けして、何とか3.11に間に合わせた。

今昔カルタは、後世に地元の歴史文化を伝え、特に震災カルタは絵によって津波の教訓を残すことができる。

【画】	水彩画	なべの「酒楽」	かどのわき住民
	色鉛筆画	あべの「長命」	かどのわき住民
	パソコン画	じんの「北斎」	伝承施設 MEET 門脇
【筆】	読み札	「月夜のウサギ」	かどのわき住民
【文】	かどのわき歴史発掘隊「隊長」		かどのわき住民代表

制 作 かどのわき町内会・3.11 メモリアルネットワーク 2026年

製作：かどのわき町内会

協力：公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク